

令和元年度 事業所職員向けアンケート集計

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等のスペースとの関係が適切であるか。	6			個別活動時には、間仕切り用扉（シャッター）を閉めて少人数で活動できる部屋を作り、全体で行うプログラムの時には間仕切り用扉を開け大きな部屋にして活用が可能。
	②	職員の配置数は適切であるか。		6		職員の配置状況については、保育士を加配しているが、個別プログラム支援や利用者送迎時の対応などを考慮し、保育士を継続求人中。
	③	事業所設備について、バリアフリー化の配慮が適切になっているか。	6			玄関・施設内等、全てバリアフリー化になっている。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	2		全体プログラムの振り返りと、個別活動に関する会議を設定している。個別活動については、対応している各スタッフから、子どもの状況や進行状況について確認のうえ、グループで話し合い、児童発達支援管理責任者が確認している。全体会議では、業務改善事項の集約・検討、及び行事の企画立案に関する意見交換を行っている。
	⑤	保護者向けの評価票を活用するなどによるアンケート調査を実施して、保護者等の意向などを把握し、業務改善に繋げているか。	6			保護者向けアンケートについては昨年同様に、ガイドラインで示された様式の内容に、マ〜チ独自の項目を追加したもので調査を実施している。今年度は、前回実施のアンケート調査で保護者から要望のあった内容を取り入れ、昨年度から行っている家族参加行事に加え、あらたにもう一つ保護者参加型の行事（餅つき）を企画、実施した。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか。	6			法人ホームページに公開している。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善に繋げているか。			6	
	⑧	職員の資質向上を行う為に、研修の機会を確保しているか。	6			職員の資質向上を目的に、スタッフ全員が研修会に参加する機会を設けている。研修参加後に学んだ内容や感想等をまとめ、全体で共有している。そのほか、今年度は、他施設・事業所の視察勉強会を実施した。

適切支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6			放課後等デイサービス計画の作成にあたっては、総合的な観点からアセスメントを行うため、学校との情報共有の機会を大切に、その件数も次第に増えている状況。
	⑩	子どもの適応行動の状態を図る為、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。	6			放課後等デイサービス計画の作成ソフトの入れ替えに伴い、アセスメントシートの見直しを行った。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	2		活動プログラムについては、担当スタッフがたたき台（案）を作成し、その後スタッフ全員で確認し決定している。
	⑫	活動プログラムが固定しないように工夫しているか。	5	1		クッキングや製作に関しては、その難易度に応じて工程を細分化することで、子ども達自身が取り組みたい内容を選択できるように工夫している。レクリエーションについては、利用者全員で行うものとグループに分かれて行うものを企画している。全体で行うものは、その内容の難易度に配慮し、参加した子ども達全員が、一緒に楽しめたという思いに繋がる様にしている。体を動かす内容や、子ども同士でテーマに沿って話し合う事、レクゲーム等で小集団での楽しさや成功体験の積み重ねを目的として、内容に変化を持たせながら提供している。
適切支援の提供	⑬	平日、休日長期休暇に応じて課題をきめ細やかに設定しているか。	5	1		平日は個別活動や全体プログラムがメインであるが、休日では、グループでの取り組みと、個別活動、全体プログラムと午前午後で内容を固定し設定している。また、休日、長期休暇では調理体験や外出行事などを企画している。
	⑭	子ども達の状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6			個別活動と集団活動を組み合わせ活動プログラムを設定しているが、その個人によって目標の設定が異なるため、全ての利用者の計画の中に個別活動と集団活動の両方の内容が盛り込まれているとは限らない。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。	6			平日は、毎日その日の支援開始前に打合せを行い確認している。長期休暇や休日については、利用者の受け入れ対応により、全員集まってる打ち合わせが難しいため、ホワイトボードなどを活用し、その日の役割を提示し、各支援者が確認してから業務にあたるようにしている。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点などを共有しているか。	4	2		終了後は、勤務体制上時間が取れない為、次の日に必ず前日の振り返りを行い、情報を共有している。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録を取る事を徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	6			日々の支援に関しては、利用者ごとにPCに記録し保存している。各利用者について、どの点を記録するかという事を一覧にし、各スタッフが確認して記録を取っている。児童発達支援管理責任者がモニタリング時期に、その記録をサービス担当者会議の資料として活用している。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか。	6			個別活動等の内容の経過を観ながらモニタリングの見直しを行っている。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っているか。	5	1		一日のプログラムとして、「個別での活動」と「全体プログラム」の2点を組み合わせて計画している。

関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	5	1		児童発達支援管理責任者がサービス担当者会議に参加し、計画内容についても触れながら情報の共有、サービス等利用計画の作成への情報提供を行っている。女性利用者の支援内容に排泄支援等が含まれるケースもあるため、今後、そのような際は女性スタッフも参画するなど配慮していく。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定の交換、子どもの下校時間の確認など）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	1		学校との情報共有では、年度初めに必ず利用している子ども達の在籍校に、挨拶に回り、送迎での注意事項、現在その学校の児童生徒で利用されている方の一覧、スタッフ（顔写真付）一覧などをまとめた用紙を校長先生、教頭先生に渡し、その際学校年間行事予定を頂き、必要事項について連絡調整を行っている。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか。		5	1	現状、医療的ケアを必要とする子どもは利用していない。また、看護師など医療スタッフが常駐しない中で、医療的ケアが必要な利用者の受け入れは難しい。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有するなどしているか。		5	1	小学校低学年の利用者が新規で利用されるときには、就学前に利用していた療育の場（発達支援センター、保育所、幼稚園など）があれば、情報を確認している。小学校高学年や中学生から新規利用する場合は、現在の様子とはかなり違う事も多く、その場合は現在の状況を把握している保護者や関係機関から話を聞いている。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容などの情報提供などは行っているか。	1	5		個人情報の管理上、あくまでも保護者からの要請を受けた場合に、移行先事業所等に情報を提供することとしている。これまで、保護者から情報提供の依頼があったケースはない。
	㉕	児童発達支援センター、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	5	1		今年度は、所属している北海道知的障がい福祉協会の主催する研修会の当番事業所として、和歌山県精神保健福祉センターの所長を招き、「愛着形成」をテーマとした研修会を開催。スタッフ全員で受講し、子どもから大人への移行を見据えた関わりについて学んだ。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会はあるか。			6	現在、放課後児童クラブや児童館との交流は行っていない。
	㉗	（地域自立支援）協議会などへの積極的に参加しているか。			6	自立支援協議会の構成メンバーはおらず、参加できていない。
	㉘	日ごろから子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6			保護者の方とは連絡帳で情報を共有している。また、保護者からやま〜ちから気になる事があれば電話でのやり取りや、実際に面談を行うなどして対応している。
	㉙	保護者の対応の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか。	1	3	2	保護者に対し、ペアレントトレーニングの支援については行っていない。保護者への支援だけではなく、支援者がペアレントトレーニングを学び、日々の現場で実践していく。その実践や効果について、保護者に伝えしていくようにする。

保護者への説明責任等	③⑩	運営規定、支援内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			利用者負担、運営規定については、契約時の説明、もしくは変更時に説明を行っている。支援内容については、放課後等デイサービス計画の説明、面談、茶話会で説明をしている。
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談を適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	6			相談を受けた場合は必ず電話、面談により内容を確認し助言を行っている。こちらからできるアドバイスは行い、より専門的なアドバイスを求められた場合は関係機関につなぐように支援している。
	③⑫	父母の会の活動を支援したり、保護者会などを開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか。	5	1		マ〜チの中で、保護者会はないが、年に1回以上茶話会を行っている。昨年度から行った家族参加行事に加え、年末に餅つき行事として保護者が参加の行事を新たに企画、実施している。茶話会や家族の参加する行事など、保護者間の情報交換が図られる機会を、今後も大切に企画していく。
	③⑬	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に対し周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			アンケート調査など、保護者等からより率直な要望、相談をあげてもらえるように、受け付け方法を工夫している。（匿名・郵送にて回収） 苦情への対応としては、受け付けた段階で管理者に報告の上、速やかにスタッフ会議、苦情解決委員会を開催する。 今後の対応等について検討した内容をご本人、ご家族へできるだけ早く説明する事を意識し対応している。
	③⑭	定期的に会報などを発行し、活動の概要や行事予定、連携体制などの情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6			毎月、広報誌を発行して、連絡事項や日々の活動について報告をしている。開設当初より事業所内外の行事を行った際には、参加した子どもたちの様子をまとめた報告書を作成し、保護者に報告をしている。
	③⑮	個人情報に十分注意しているか。	6			個人情報に関わるファイルなどは、カギのかかる棚に保管し、関係者以外開けることができない。
	③⑯	障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	③⑰	事業所の行事に地域住民を招待するなど地域に開かれた事業運営を図っているか。		1	5	地域住民を招待しての行事企画に関しては、利用者、保護者の希望についても十分確認しながら検討する必要がある。

非常時等の対応	③⑧	緊急対応マニュアル、防災マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか。	6			各種マニュアルは策定の上、茶話会等で保護者への説明を行っている。感染症等が流行する時期には、広報誌等で注意喚起している。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			年度初めに避難訓練計画を作成し、茶話会等で保護者に説明している。月曜日から金曜日の各曜日で避難訓練を実施することで、利用されている方全員が避難訓練を受けられるように配慮している。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等の適切な対応をしているか。	6			3月に虐待防止、権利擁護に関する外部研修を受講する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、開催が中止となった。虐待防止に関する園内研修を実施。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6			事故、危険回避のために手をつなぐことや、掴むことなどはある為、スタッフ全体で協議し振り返り支援策を決定する。身体拘束にあてはまる方に関しては放課後等デイサービス計画に記載する。今現在は記載している方はいない。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			食物アレルギーのある利用者の方には、検査の結果についてコピーを頂いている。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか。	4	2		ヒヤリハットに関して会議の中で協議し、書面で作成しスタッフ全体で確認している。また、今後他事業所で情報交換で得た内容も含め、事業所内で検討しリスクマネジメントにつなげる。